立手し時呪の事、◎痔の神と人の信仰可笑事、◎疝気まじないの事、◎痔疾まじないの事、◎雷を嫌ふもの薬の事

このほかに、処方にまつわる話もある。

◎実母散起立の事（巻二）、◎十千散起立の事（巻六）

『耳嚢』の刊行本は、岩波文庫の旧版の二冊本（一九三九年初版）は六巻本であったが、現在の同文庫の『耳嚢』は上中下の三冊本（一九九一年刊）で、これには新しく一〇巻本が収められている。また東洋文庫にも『耳袋』二冊本（一九七二年初版）があり、これも一〇巻本であるが、この刊本はページ数の関係から、呪いや民間療法的な記事は削除されている。そこで本研究では岩波文庫の三冊本を用いることにした。この底本になったものは、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の旧三井文庫で、現在知られる諸本中唯一の一〇巻完備の本である。

（熊本工業大学）

11 群馬県沼田市の石仏と民間信仰について

○1)湯浅高之・2)藤野珣男・3)屋代正幸

医学の発展をみない昔の人々は、病気の苦しみや歯の痛みの際に、どのような対応をしていたかを考えるのは、興味深いことである。

古来より、これらの時の対応の方法は、神仏に祈願するより他に仕方がなかったようで、各地の習俗や民間信仰の中に多く残っており、今なお伝承されている事例もある。

今回紹介する、群馬県沼田市内にある石仏は、地元の人たちから「味噌なめじいさん」「味噌なめばあさん」と崇められ、古くから風邪や歯痛を治す霊験があると伝承されていて、人々は、風邪や歯痛になると味噌を持参し、石仏の口にこの味噌を塗りこみ、その快癒を一心に祈願すると治ると固く信じられてきている。

このような風習が他にないかと詮索してみると、いくつかの事例が認められた。そのひとつとして、「なで仏」といわれる仏像があり、「おびんずる様」と人口には膾炙されている。このびんずる尊者は、釈迦の弟子で、十六羅漢の筆頭といわれている。このため、この像は、各地の寺院に安置されていることが多い。日本ではいつの頃からか、自分の身体の痛んでいる所をなでて、その手でびんずる様の相当する所をなでると、病気が治ると信仰されてきている。また、東京都豊島区巣鴨の曹洞宗高岩寺は、「とげぬき地蔵」の名で知名度が高いが、この寺の境内にも同様の石仏がある。通称「洗い観音」と呼ばれる石仏で、寺伝によるとこの石仏は、縁あって明治二十四年頃、他所より移築されたものとある。この石仏も、病を得ている人が、自分の病んでいる部分と相応する部分に水をかけてたわしで洗い、治癒を祈願すると快癒するといわれ、古くから信仰されてきている。

これらの他にもこのような習俗は、種々伝承されているものと思われるが、特に、石仏の口に味噌を塗るという習俗は、歯科医学的にも民族学的にも興味ある事例なので、実地踏査し、これに類似した習俗とを比較検討し、考察したので報告する。

1)2)(池園歯科研究会)
3)(日本歯科大学)